



報道関係各位
プレスリリース

2012/6/21
コンデナスト・ジャパン

『GQ JAPAN』2012年8月号(6月23日発売)特集

『GQ』ロンドン・オリンピック大特集

男子背泳ぎ 入江陵介が プラダのタキシード姿で表紙に登場!

- マラソン 藤原新 / 平泳ぎ 北島康介 / トランポリン 伊藤正樹...etc
ロンドンにかける男たちに、スポーツジャーナリスト 二宮清純が迫る
- ロンドン五輪招致、その真相と舞台裏
- 五輪スポンサー・ビジネスの真実



GQ JAPAN 2012年8月号
Photo: ND CHOW
(C) 2012 CONDÉ NAST JAPAN.
All rights reserved.

『GQ JAPAN』8月号は、いよいよ来月に開幕が迫ったロンドン・オリンピックを大特集! 表紙&カバーストーリーには、100m 背泳ぎ、200m 背泳ぎ、4×100m メドレーリレーに出場を決めた競泳男子日本代表の入江陵介選手が登場します。

額にペットボトルを乗せたまま 50m を泳ぎ切ったという逸話を持つ“世界一美しいフォーム”で金メダルを狙う入江選手。「背泳ぎって、トップを独走していると後に続く選手が全員見えるんです。これって快感なんです。これまでの僕だと、後半から視野に入る選手が増えていったけれど、ロンドンでは前半から一人でもたくさんのライバルを

後ろに見すえて泳ぎたいです」。18歳で出場した北京オリンピックから4年、インタビューからは、泳ぎの実力も精神力も、たくましく成長を遂げていることが伝わってきます。

また今回は、本格的なファッション撮影に初挑戦。プラダのタキシードをまとい、リーゼントにオペラパンプス……水浸しになった姿は、文字通り、水も滴るいい男！闘いの舞台を目前にした、凛々しくもセクシーな姿にご注目ください！

■スポーツジャーナリスト二宮清純が、世界に挑む日本人アスリート6人を語る

今年2月の東京マラソンで日本人最上位の2位に入った藤原新選手の、「カネに目がくらんで必死でしたね」と言っていた“ハングリー精神”。オリンピック2大会連続2種目制覇を成し遂げた、競泳男子北島康介選手の“目力”。「今は本気で五輪でいい成績を残すことしか頭にありません」と話す隠れたメダル候補者、トランポリンの伊藤正樹選手のマイナーな競技をメジャーにしたいという“使命感”。その他、サッカー女子の佐々木則夫監督、男子フェンシングの太田雄貴選手、男子柔道100kg超級の鈴木桂治選手の6人の強さに、スポーツジャーナリストの二宮清純さんが迫ります。

■ロンドン・オリンピックのアザーサイドストーリー

オリンピック開催都市は、選手のみならずIOCメンバーら“オリンピックファミリー”専用の車線を設けること、運転手付きのリムジン500台を用意することなど、IOCによる“拘束”とも言える何万もの規約の順守が義務付けられています。さらに、ロンドン五輪では、開催施設の建築費の拡大、セキュリティ対策への投資など、数々の課題も山積するといえます。それらの投資に対するリターンを期待する元ブレア首相らイギリス政府、ロンドン市、実行委員会の思惑とともに招致の裏側に迫ります。

■五輪スポンサー・ビジネスの真実

日本企業として唯一、オリンピック最高位スポンサー契約を交わすパナソニックが、“スポーツの祭典”をサポートするにいたった経緯、そして24年にわたるスポンサーシップの背景にある、グローバルマーケットを視野に入れたビジネス展開の意図とは？パナソニックのオリンピックマーケティング室室長の西貝宏伸さんへのインタビューや、マクドナルド、コカ・コーラなどその他スポンサー企業の取り組みから、オリンピックに協賛する企業の狙いを探ります。

■そのほか、『GQ JAPAN』8月号の特集は、以下のとおり

- ・松岡修造さんに聞く、ロンドン五輪の見どころ！
- ・ミック・ジャガー独占インタビュー 傑作アルバム『Exile On Main St.』をめぐる真実のストーリー
- ・橋下徹研究「救世主か、怪物か!？」高橋源一郎／田崎健太
- ・GQ WATCH Special 新作厳選35本！時計を語る男でありたい ほか

【GQ JAPAN】

1957年に米国で創刊し、現在19カ国で発行される、クオリティ・ライフスタイル誌『GQ』の日本版。知性・品性・感性を備え、本質にこだわる男性のための月刊誌として、2003年に創刊。時代に影響を与えた各界の男性たちを毎年年末に表彰する「GQ Men of the Year」も好評。今年創刊9周年を迎えた。

編集長：鈴木 正文(すずき まさふみ) / 発売：毎月24日 / 定価：580円(税込) / 発行：コンデナスト・ジャパン

インターネットへの掲載の場合、次のURLを掲載の上、リンクしてください。

<http://gqjapan.jp/latest/> (2012年8月号の情報は6/23更新予定)

本件に関する報道関係の方からのお問い合わせ先
GQ JAPAN マーケティング部 TEL: 03-5485-9152